



新火葬場の完成予想図（正面図の一部）

環境に配慮した 新火葬場を建設します

～火葬場建替工事着工～

12月5日(木)、平成16年2月の完成を目指し、新火葬場の建設工事に着手しました。

この新火葬場は、昭和48年に供用開始した現火葬場の老朽化に伴い、富浦町 186 番地に総事業費約11億円をかけて建設するもので、敷地面積3万1,159平方[㍍]、床面積は現火葬場の約4倍の1,697平方[㍍]で、鉄筋コンクリート造り一部2階建て。火葬炉は現在と同じく3基設けますが、ダイオキシンの発生量を国の基準の10分の1に抑える集じん装置を設け、環境に配慮した施設となっています。

また、28畳の待合室を3室備え、敷地内には日本庭園も設けます。

なお、新火葬場の供用開始は、16年4月を予定しています。



くわ入れをする上野市長

スポーツは結果よりも 途中のドラマが面白い

～西田善夫さん講演会～

12月4日(水)、市民会館で文化・スポーツ振興2002実行委員会主催によるNHKの元アナウンサーでスポーツキャスターや解説委員を務めた西田善夫さんの講演会『話し上手は、聞き上手』が開かれました。



西田さんは、スポーツ取材や実況などの自らの経験談や、ワールドカップサッカー決勝戦会場の競技場長として舞台裏で準備にかかわったエピソードなどを軽妙な語り口で披露。「スポーツは結果だけを見ると単純だが、その過程にこそドラマがある。それをいかに伝えるかが大切」と話して講演会を結び、約400人の聴衆から大きな拍手が送られました。

そば打ちを初体験

～『年越しは手打ちそばで』教室～



11月30日(土)、12月1日(日)の2日間、文化伝承館で公民館講座『年越しは手打ちそばで』教室が開かれました。

この講座は、伝統食のそば打ち体験を通し、自らが打ったそばで家族が健康に新年を迎えてもらおうとの願いを込めて平成10年から行われているもので、2日間で夫婦や親子など67人が参加しました。

エプロンに身を包んだ参加者は、郷土資料館ボランティアSLGから指導を受けながら、そば粉を練り、麺棒でのして包丁で丁寧に切る一連の作業を体験。

富岸町の主婦・笹岡久美子さんは「初めてなので緊張しました」と話しながら、出来上がった二八そばをうれしそうに持ち帰っていました。

『住みよいのぼりべつ』を 目指して

～第27回まちづくり市民のつどい～

12月8日(日)、市民会館で登別市民憲章推進協議会主催による『第27回まちづくり市民のつどい』が開催されました。

この催しは、市民憲章の精神をお互いに理解し合いながら、うるおいと活力ある地域社会を築いていこうと、毎年開かれているものです。

この日は、登別郷土文化研究会名誉会長の宮武紳一さんによる『登別地方のアイヌ文化と歴史について』と題した講演会と登別市立緑陽中学校吹奏楽部の演奏が行われ、参加した約200人の市民は、ふるさとの歴史にまつわる興味深い話や若さあふれる演奏を楽しみました。

